

# 児童会・生徒会による いじめ防止の取組事例集



大館市立桂城小学校



仙北市立楡木内小学校



鹿角市立花輪第一中学校



井川町立井川中学校



県立矢島高等学校



県立支援学校天王みどり学園

「いじめは人間として絶対に許されないもの」との意識を、学校教育全体を通じて、児童生徒一人一人に徹底し、いじめを許さない学校づくり、学級づくりを進めるためには、児童会・生徒会活動などにおける共感的な人間関係づくりや自発性・自治力の育成が大切です。

秋田県教育委員会では、いじめ問題に対応する際の参考資料として、県内の小・中・高・特別支援学校で、児童会・生徒会がいじめ問題に正面から向き合い、その根絶や未然防止に向けて全力で取り組んでいる様々な実践例を収集し、取組事例集を作成いたしました。

県内の各小・中学校で、児童生徒が主体的にいじめ問題に向き合う取組が一層充実するよう、本事例集を活用していただければ幸いです。

## 目 次

### 【小学校】

・大館市立桂城小学校	1
・能代市立向能代小学校	2
・秋田市立築山小学校	3
・由利本荘市立岩城小学校	4
・仙北市立桧木内小学校	5
・羽後町立三輪小学校	6

### 【中学校】

・鹿角市立花輪第一中学校	7
・北秋田市立合川中学校	8
・男鹿市立潟西中学校	9
・井川町立井川中学校	10
・大仙市立中仙中学校	11
・県立横手清陵学院中学校	12

### 【高等学校】

・県立矢島高等学校	13
・県立横手城南高等学校	14

### 【特別支援学校】

・県立支援学校天王みどり学園	15
・県立稲川支援学校	16

# 【小学校】

(小学校低学年用)

## 秋田わか杉っ子 いじめゼロに向けた五か条

- 一 私たちは、絶対にいじめをしません。
- 二 私たちは、いじめを見すごさず、みんなで力を合わせていじめをなくします。
- 三 私たちは、思いやりの心で、相手の気持ちを感じたり考えたりします。
- 四 私たちは、一人一人のよいところをたくさん見つけ、自分も相手も大切にします。
- 五 私たちは、いろいろな人たちとなかよくし、みんなを支える一人になります。

(小学校中・高学年用)

## 秋田わか杉っ子 いじめゼロに向けた五か条

- 一 私たちは、いじめが人権をそこなう、許されない行いであることを理解し、絶対にいじめをしません。
- 二 私たちは、いじめを見すごさず、友達や信頼できる人と力を合わせて、いじめがなくなるように行動します。
- 三 私たちは、思いやりの心を大切にし、友達の喜びや心の痛みを、その人の気持ちになつて感じたり考えたりします。
- 四 私たちは、一人一人のよいところをたくさん見つけ、自分も相手もかけがえのない存在として大切にします。
- 五 私たちは、生活の仕方や文化、ものの考え方などにちがいがあっても進んで交流し、みんなを支える一人になります。



学校名	大館市立桂城小学校	児童数	233人	学級数	9
-----	-----------	-----	------	-----	---

1 活動名 チャレンジ, チェンジ桂城っ子 ~めざせいじめゼロ, そしてあいさつ日本~

2 活動の趣旨

児童会による日頃の取組や集会活動を通して、児童一人一人の規範意識や所属意識を高め、児童同士の良好な関係づくりや自治的な集団づくりを促進させる。

3 活動の概要

(1) 児童会による、お互いのよさを認め合い、所属意識を高めるための常時活動、集会活動

①キラッとさん

各学級ごと、頑張っている友達や優しい振る舞いをしている児童について、毎日の帰りの会で紹介したり、月末にカードを書いてその友達に渡したりしている。また、計画委員会がキラッとさんとして選ばれた児童にインタビューをして、放送で紹介している。



【わんぱく集会 高得点をねらって相談中】

②わんぱく集会

各学級ごとにボウリングや輪投げ、迷路などのブースを出し、全校児童がブースへ出かけ、出し物を体験しながら交流を深める活動。アイデアを出し合い、協力しながら準備を進める姿が見られる。また、訪れた児童に対して、心をこめて接しようとする姿も多く見られる。

③ドッジボール大会・なわとび集会

安全・体育委員会による企画、運営で、学級対抗で試合をしたり、記録の更新に挑戦したりしている。毎年、児童のリーダーシップの下、お互いにアドバイスしながら練習を進め、学級の団結を強固にすることができる。また、試合の後はお互いに健闘をたたえ合う場面が多く見られる。

(2) 児童会による、生活習慣向上のための取組

①挨拶運動

月に一度、登校の時間帯に各学年ごとに行っている。児童同士だけでなく、通りかかる地域の方々とも言葉を交わすことができるようになってきている。

②清潔検査

ティッシュやハンカチの所持、爪の長さや朝食の摂取状況について各学級ごとに調べ、その結果を保健委員会が集約し、給食時に放送している。学級全員で、身なりを整えようとする意識を高めることにつながっている。

③R・A・T（ろう下・歩こう・トレーニング）計画

ろう下の安全な歩き方（右側を一行で静かに）を身に付けるために、実際に練習をしてみる活動。計画委員会が昼休みに行い、全校児童が参加している。多くの児童や職員に見られている中で歩くため、より真剣に取り組む、規範意識を高めることができている。

4 これまでの成果と考えられること

各委員会とも、ポスターを掲示したり、放送で呼びかけたりするという一方向の活動から、全校児童が参加して体験する活動を行う、という考え方に変わった。これによって児童同士の関わりが活性化され、その中でお互いのよさを認め合う態度が身に付き、学級のまとまりを高めることができた。自分から挨拶をする、持ち物を揃える、ろう下は歩く、などについても児童同士の呼びかけにより徹底されるようになった。また、自分たちで学校を変えていくことができる、という意識が芽生え、より主体的に行動できる児童が増えた。

5 今後の課題

学級内や学年内のつながりが強くなってきていることに対して、縦割り班による異学年での関わり方が弱いと感じる。上学年の児童によるリーダーシップと下学年の児童によるフォロワーシップが更に発揮され、上学年の児童に対する尊敬の念や、下学年の児童に対する思いやりの心が養われるように活動内容を工夫していきたい。



学 校 名	能代市立向能代小学校	児童数	343人	学級数	15
-------	------------	-----	------	-----	----

1 活動名 魅力ある学校づくりといじめの未然防止活動

2 活動の趣旨

本校は平成26、27年度の2年間、文部科学省国立教育政策研究所の指定を受け、「魅力ある学校づくり調査研究事業」に東雲中学校、竹生小学校、朴瀬小学校と4校で連携して取り組んだ。2年間の委嘱期間の中で、全ての児童生徒を対象とした魅力ある授業づくりや集団づくりを進めることで、不登校やいじめ等の未然防止につながる学校づくりをするための調査研究を行った。委嘱期間が終わった後もその成果を生かして、いじめ等の未然防止につながる実践を継続している。

3 活動の概要

- (1) 「豊かな人間関係づくり」「学習指導の充実」「児童会活動の充実」「家庭教育との連携」など、学校の創意工夫を生かした魅力ある学校づくりを推進する。
- (2) 「小中連携」「小小連携」の効果的な取組を継続する。(東雲ブロック連絡協議会)
- (3) 児童の実態把握のために意識調査を年2回実施し、指導に生かす。(6月及び10月)
- (4) 行事等への取組についてPDCAサイクルでの指導を継続する。
- (5) 縦割り班による掃除や遊びの交流を通して、思いやりの心を育てる。
- (6) 児童会の運営委員会が中心となって、「いじめ防止標語」の募集と「いじめゼロ集会」を毎年実施する。
- (7) 具体的な取組例

①「豊かな人間関係づくり」「学習指導の充実」では、分かる授業を継続するため、授業のはじめに、今日の授業ではこれができるようになればよいという「授業のゴール」を提示することを心がけている。自己有用感や自尊感情の低い児童が、集団の中で自分の心の居場所を見出すことができなかつたり、人間関係づくりがうまくいかなかつたりすることが家庭環境とも相まって、いじめなどの問題行動につながるものが少なくない。こうした悪循環を未然に防ぐことが大切であると考えている。

②児童会の「いじめ防止標語」の募集と「いじめゼロ集会」では、児童会の運営委員会が中心となり、いじめをなくすための学級活動での話合いや標語募集を経て、「いじめゼロ宣言」を校内に掲示している。



【いじめ防止標語発表の様子】

4 これまでの成果と考えられること

- ・分かる授業や生徒指導の機能を生かした授業づくりをとおして、互いのよさを認め合える学級の人間関係づくりが進められている。
- ・縦割り班活動やいじめ防止の取組をとおして、思いやりの心が育ってきている。

5 今後の課題

- ・今後もいじめの未然防止につながる日頃の指導や観察、会話、アンケートなどを大切にしながら重大事態に至らないように職員の共通理解と共通実践に努めていく必要がある。

学 校 名	秋田市立築山小学校	児童数	390人	学級数	15
1 活動名	築山小学校児童会 えが夫くんプロジェクトによる「もっとなかよく いじめをぜったいに起こさないプロジェクト」				
2 活動の趣旨	<p>本校では、子どもが主体的に活動し、自己実現を図っていけるよう、自分の思いや自己決定を大切に、共に高め合う児童会活動を推進しており、児童会テーマ「笑顔の花 元気の花 夢の花 咲かせよう かがやく花を 築山っ子」のもと、子どもたちが考案し誕生させた児童会キャラクター「えが夫くん」「元太くん」「ゆめこちゃん」を主役とした3つのプロジェクトを立ち上げている。本事例の「もっとなかよく いじめをぜったいに起こさないプロジェクト」は、代表委員会、図書委員会、放送委員会が中心となって全校で取り組んでいるえが夫くんプロジェクトの一環である。</p>				
3 活動の概要	<p>(1) えが夫くんプロジェクトの取組          本校では、平成26年度より、12月の人権週間に合わせて、この活動に取り組んでいる。「人権週間」とは、命を大切にすることや、相手を思いやり、人として正しく生きていくことを、みんなで考え合う一週間のことである。昨年度は児童会目標の一つである「もっとなかよくだれでも いじめをぜったいに起こさない」のもと「友達のいいところを見つけて、全校に広げよう」というめあてを設定し、12月5日～16日の期間に実施した。12月2日に「いじめをぜったいに起こさない宣言」を校内放送で行い、プロジェクトをスタートした。</p> <p>(2) 「もっとなかよく いじめをぜったいに起こさないプロジェクト」の取組          えが夫くんプロジェクトのスタート宣言を受けて、「えが夫くんポスト」を設置し、全校児童に「えが夫くんカード」の配付を行った。そして児童が見付けた友達のよいところや頑張りなどをカードに書いて、職員室前のポストに投函してもらった。          プロジェクトメンバーが、集まったカードを職員室前の【みんなが見つけたえが夫くん】「えが夫くんカード掲示板」に掲示し、それらの中からいくつかを「今日のえが夫くん」として、昼の放送で紹介した。さらに、放送で紹介したカードを書いた人と紹介された人の両方に、「えが夫くんしおり」をプレゼントし、えが夫くんの輪を全校に広げていった。          この活動を通して、もっと友達のよいところを見付けようという雰囲気広がった。活動最終日には、えが夫くんプロジェクトの代表が、「自分や友達にはよいところがいっぱいあることを知り、みんながもっと仲良くなって、いじめがぜったいに起こらない、笑顔いっぱい築山小学校にしていきましょう。」と全校に呼び掛けた。</p> <p>(3) 各委員会で創意工夫した取組          「もっとなかよく いじめをぜったいに起こさないプロジェクト」の期間に合わせて、各委員会でもいじめをなくす活動を企画して取り組んだ。内容は次のとおりである。          ・図書委員会による「思いやりあふれる本のコーナー」の設置          ・放送委員会による「思いやり」をテーマにした本の朗読          ・運動委員会による「みんなでなかよくなろう！スポーツ集会」の開催</p> <p>4 これまでの成果と考えられること          学校生活アンケートでは、「あなたは友達の頑張りやよいところを認めていますか？」「あなたは友達と協力し、いじめのない笑顔いっぱいの学級にしようとしていますか？」の2項目で、「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した子どもが、どちらも97%以上の高い割合を示していた。また、進んで挨拶をしようとする子どもが増え、明るい笑顔の挨拶がこれまで以上に校内に響くようになった。</p> <p>5 今後の課題          年度当初から「いじめをぜったいに起こさない」とする気運が高まるような年間計画の見直しや、学年集会や全校なかよし活動の充実により、「絆づくり」と居心地のよい「居場所づくり」をさらに進めていきたい。</p>				



【みんなが見つけたえが夫くん】

学 校 名	由利本荘市立岩城小学校	児童数	230人	学級数	10
-------	-------------	-----	------	-----	----

1 活動名 心が通い合い、自分らしさを発揮できる学校を目指して

2 活動の趣旨

本校の生徒指導部の目標は、「互いのよさを認め、自らの考えや判断を大切にして、自分らしさを発揮しようとする子どもを育てる」である。児童一人一人の心のふれあいを大切にした自主的・体験的な活動を推進していくことによって、全校が「いきいき笑顔」で「わくわく学習」に取り組み、「きらきら活動」できるようになると考える。

3 活動の概要

(1) 全校縦割り活動「なかよしグループ」

縦割りによるグループを組織し、交流活動を行っている。高学年児童は主体的に計画・運営する取組の中でリーダーシップを発揮すること、中・低学年児童は高学年にリードしてもらいながら楽しんで活動に取り組むことで、積極的に友達と関わろうとする心や、相手を思いやろうとする心を育むことをねらいとしている。

① なかよし集会（4月）

新1年生を迎え、縦割りグループで一緒に踊ったり、ゲームをしたりして交流を深める。交流を通して、困ったことなどを何でも相談したり、話し合ったりできる兄弟のような感覚をもたせる。

② なわとび集会（1月）

12月から縄跳びの練習を始め、班ごとに長縄の練習にも取り組み、その成果を披露し合う。縦割り活動として活動してきた団結力を示す集大成のイベントである。

③ 6年生ありがとうの会（2月）

班のリーダーとしてお世話になった6年生に、感謝のメッセージを送る。（事前に書いたカードを台紙に貼り付けてプレゼントする。）



【なかよし集会の様子】

(2) 委員会活動による「挨拶運動」（通年）

運営委員会が玄関前で、ボランティア委員会が各教室を回って行く。朝の登校時や教室内の様子を子どもたち自身が見取ることで、活動の成果を確認したり、以後の活動に生かしたりしている。

4 これまでの成果と考えられること

- ・学校統合4年目となり、当初は出身小学校間の隔たりがあるのではないかと懸念されたが、自主的・体験的な活動を多く取り入れることで、その不安は解消され、心の通い合いが見られるようになってきている。
- ・子どもたちが進める挨拶運動に、保護者や地域の方々も参加し、学校の前やスクールバスの集合場所などで共に活動する姿が見られるようになった。子ども一人一人に寄り添い見守るという雰囲気、教職員だけでなく、保護者や地域の方々にも広がってきている。

5 今後の課題

- ・フレンドリーな関係の中にも、集団生活としてのルールが存在する。些細なことから生じるトラブルに対して、丁寧な対応と継続指導を重ねていくことが求められる。
- ・毎日の学校生活で、当たり前のことを当たり前に実行していくこと（凡事徹底）が、学習や生活など全ての面での向上につながっていくことを再確認し、日常の指導に当たりたい。



学 校 名	仙北市立桧木内小学校	児童数	52人	学級数	7
-------	------------	-----	-----	-----	---

1 活動名 協力してできる輪 元気なあいさつ ひのきっこ

2 活動の趣旨

児童の主体的な活動を通して、相手を思いやる心を育てるとともに、仲良く助け合い、感謝する心を育むことによって、いじめが起きにくい学校の土壌づくりにつなげる。

3 活動の概要

(1) あいさつ運動

代表委員がKGA隊（きらっと元気なあいさつ隊）としてあいさつ運動を行っている。月曜日に校内の各場所に立ち、また、火曜日には、朝の時間に各教室を回って元気なあいさつをしている。2日間で元気なあいさつをした人数を集計し、全校に伝えた。代表委員だけでなく、夏休み明けからは縦割り班で各教室を回り、元気なあいさつを広げる活動を行っている。さらに放送委員会からは、朝の放送で、その場に立ち止まり、近くにいる友達や先生の方を見てあいさつをすることを呼びかけ、気持ちのよいあいさつで一日をスタートしている。



【縦割り班でのあいさつ（KGA）隊】

(2) いじめゼロ標語（6月）

思いやりの心や仲良くすることの大切さを表した標語を短冊に書いてもらい、それを階段の柵に飾った。現在も校内に掲示し、常に意識して生活できるようにしている。さらに、毎週木曜日に各学年の標語を朝の放送で紹介した。

(3) あったか言葉を広げよう運動（9月）

素直な心や相手を思いやる心を大切にしようと「あったか言葉を広げよう運動」を行った。「あったか言葉」（言われてうれしい言葉）を全校に呼びかけ、強調週間を設けて実施し、「あったカード」で振り返りをした。「ありがとう」や「大丈夫？」という言葉が多く使われ、実施期間中は温かい言葉かけをする児童が増えた。「あったか言葉」は校内に掲示し、常に意識して生活できるようにしている。

4 これまでの成果と考えられること

- ・教室内や廊下でのあいさつが元気になってきていると感じる。遠く離れている場所からでも進んで大きな声であいさつする児童が見られるようになった。児童の主体的な活動を大切にしてきたことの効果と考えている。
- ・互いに感謝の言葉をもらったり相手に共感してもらったりする機会が積み重なったことで、「あったか言葉を使って気持ちよかった」という声が振り返りの時に多く聞かれた。思いやりの心が育まれてきていることが児童の表情や言動から読み取れるようになってきた。

5 今後の課題

ある程度期間を設けて実施すると効果が大きい。常に意識付けし、意欲を継続させることに難しさを感じるが、機会を捉え実践していく必要がある。相手のことを考えた発言、温かい言葉かけが常にできるように、児童への働きかけ方を工夫していきたい。

学 校 名	羽後町立三輪小学校	児童数	153人	学級数	8
-------	-----------	-----	------	-----	---

1 活動名 Happy Smile Time ～ハッピー スマイル タイム～

## 2 活動の趣旨

本校では、運動会の色別対抗応援合戦、なべっこ会、縦割り掃除、各色ごとの顔合わせ集会、ウォークラリーなどの機会に異年齢集団による交流を計画的に行っている。今年度は、児童が主体になって縦割りグループで楽しく活動をする「Happy Smile Time」を計画した。このことによって、グループのメンバーの絆をさらに強め、児童個々の自己有用感を高めることにつなげたいと考えている。

## 3 活動の経緯と概要

- (1) 児童総会で、児童から「全校縦割りで楽しむ機会を作って欲しい」という要望があった。
- (2) 運営委員会が中心になり、全校縦割りグループで楽しむ活動を一学期に1回、二学期に3回、三学期に1回行う予定を立てた。



【第3回HST「黒板しりとり」】

- (3) 第1回HST(Happy Smile Time)は7月に行った。  
昼休み後の35分間を活動に当て、4か所に分かれ、各グループの6年生が計画を立てて実施した。(だるまさんが転んだ、大縄跳び、リレー、フルーツバスケット)
- (4) なべっこ会の際、5、6年が芋の子汁を作っている間に4年生が計画を立てて、第2回HSTを実施した。(リレー、氷鬼、王様ドッジボール、バスケットボール)
- (5) 第3回HSTは10月に、第4回HSTは12月に、第1回と同様に6年生が計画を立てて実施した。(フルーツバスケット、陣取りじゃんけん、宝探し、黒板しりとり)
- (6) 第5回HSTは、5年生が中心となって計画を立て、3月に実施する予定である。

## 4 これまでの成果と考えられること

今年度、HST(Happy Smile Time)を行ったことにより、毎日行っている縦割り掃除の際の児童同士の関わりがよくなり、助け合ったり認め合ったりする姿が見られるようになってきている。また、休み時間に、同学年だけでなく異学年とも遊ぶ児童が増えた。これは、異学年や同学年と一緒に遊んだりすることを通して、「人と関わることは楽しい」と感じる児童が増えてきたからだと考えられる。

また、上学年においてはリーダーシップを発揮する機会が増えたことによって自己有用感を高めることができ、下学年においては上級生の姿を見て規範的に行動する意識が育ってきている。

## 5 今後の課題

全国学力・学習状況調査や県の学習状況調査のアンケートによると、「自分にはよいところがあると思う」と答えた本校の児童の割合は少しずつ上昇してきている。この活動を足がかりに、「人と関わることは楽しい」と感じる場を児童主体でさらに進めることによって、全ての児童が「自分にはよいところがある」と思うことができるように支援していきたい。

# 【中学校】

(中・高校生用)

## 秋田わか杉っ子 いじめゼロに向けた五か条

- 一 私たちは、いじめが人権を侵害する許されない行為であることを理解し、絶対にいじめを行いません。
- 二 私たちは、いじめを見過ごさず、友人や信頼できる人と力を合わせて、いじめの根絶に向けて行動します。
- 三 私たちは、思いやりの心を大切にし、他人の喜びや心の痛みをその人の身になって感じたり考えたりします。
- 四 私たちは、一人一人の違いを認め、自分も相手もかけがえない存在として尊重します。
- 五 私たちは、生活習慣や文化、価値観の異なる人々とも積極的に交流し、社会を支える一人になります。



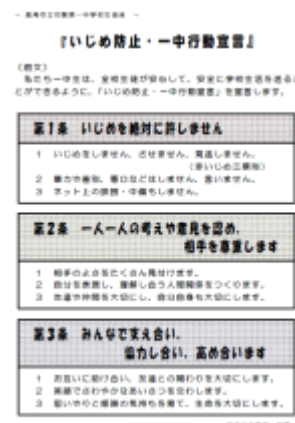


学 校 名	鹿角市立花輪第一中学校	生徒数	267人	学級数	11
-------	-------------	-----	------	-----	----

1 活動名 いじめ防止プロジェクト ～「いじめ防止・一中行動宣言」を活用した実践～

2 活動の趣旨

「いじめ防止・一中行動宣言」の条文を自分自身の言葉・宣言に書き換え、意識化を図ることで、自らの言動を律したり、他者の考えを受け入れたりできる生徒の育成を目指す。



3 活動の概要

平成26年度に生徒会が主体となり、「いじめのない学校にするためには」の問いに対する生徒の思いをまとめ、「いじめ防止・一中行動宣言」を作成した。「いじめは絶対に許されないこと」という共通認識のもと、学校生活に関するアンケートと合わせて、いじめの早期発見・未然防止を図るため、生徒会が主体となって、いじめをしない・させない環境作りの一つとしていじめ防止プロジェクトを立ち上げ、実践している。

◇活動内容◇

①「いじめ防止・私の行動宣言」の作成と掲示

各学期の始めに、条文を基にして自分自身の行動宣言を考え、学級内や校内に掲示し、自分や仲間のいじめ防止に対する決意を日常的に目に見える形にすることで、自らの行動を律することや仲間の思いを大切にすることを意識を高めている。

- (4月) 第1条「いじめを絶対に許しません」
- (9月) 第2条「一人一人の考えや意見を認め、相手を尊重します」
- (1月) 第3条「みんなで支え合い、協力し合い、高め合います」



【玄関前に掲示された行動宣言】

②「いじめ防止キャンペーン」の実施

10月の学校祭において全校生徒の行動宣言を掲示した他、来校者から「いじめのない学校にするために大切にしたいこと」を答えてもらった。来校者からの意見を取り入れる形で11月に「いじめ防止キャンペーン」を企画した。生徒会が行っている朝のあいさつ運動の際に、学級委員長や専門委員長を加えて、いじめ防止の呼びかけを行った。

4 これまでの成果と考えられること

生徒自身がいじめをしてはいけないという決意を確かなものにする機会となっている。また仲間の思いを知る機会にもなっており、お互いの考えを認め合える集団づくりに一役買っている。この取組は4年目を迎えている。毎月行っている学校生活アンケートでは、学年が上がるにつれて、いじめを訴える件数が減少しており、生徒のいじめ防止に対する意識向上につながっている。

5 今後の課題

個人の実践がより確実なものになるような働きかけが必要であると考えている。自己評価を実施したり、各委員会や各学級でキャンペーンを行ったりして、様々な方法で、生徒のいじめ防止に対する意識を高めていきたい。また、学校祭でも取り組んだように、家庭や地域ともつながる活動を展開することで、より効果を高めていきたい。

学 校 名	北秋田市立合川中学校	生徒数	136人	学級数	6
-------	------------	-----	------	-----	---

1 活動名 いじめ未然防止に向けた「全校対話集会」の実践

2 活動の趣旨

いじめを許さない雰囲気，いじめが起きにくい風土を確かなものにするために，問題意識をもって話し合い活動に臨み，「合中いじめゼロ」に向けたルールを生徒の手でつくる。

3 活動の概要

- ・平成27年度のPTA総会では保護者向けに，生活委員会主催の集会では生徒向けに，「法律上のいじめ」の定義や校内いじめ防止対策基本方針等の確認を行った。また，生活振り返りアンケートを定期的に行い，生徒の悩みを吸い上げられるようにした。しかし平成28年度4月からの上半期に「一度でも心身に苦痛を感じた」という法律上のいじめを7件認知した。（27年度一年間の認知件数と同じ）そこで，いじめを許さない雰囲気，いじめが起きにくい風土を確立するために，一歩踏み込んだ取組が必要だと考え，活動に取り組んだ。



- ・いじめ未然防止に向けた「全校対話集会」

①いじめをテーマとした全校同一資料での道徳の授業（平成28年度）

生徒指導主事が資料を用意し，生徒に何を考えさせ，どんな思いをもたせて全校対話集会につなげていくか指導の方向性を学級担任と共有し，各学級で道徳の授業を行った。

②全校対話集会（平成28年度）

きたあきたいじめゼロサミットに参加した生徒会副会長が各校の取組を紹介した後，問題提起を行い，縦割り班で意見交換をした。（PTA授業参観として保護者も参加）

③合中いじめゼロに向けたルールづくり（平成28年度）

集会で出された意見を基に，生徒会執行部が中心となって「合中『いじめゼロ』への道～3つの約束」を作成し，全校集会で共有したり，教室に掲示したりした。

④全校対話集会（平成29年度）

サミットについての報告や全校道徳での取組を基に，生徒会執行部が現状分析を踏まえた問題提起をし，合中生が温かい集団であり続けるためにはどうすればよいか話し合った。

⑤いじめの未然防止に向けた一人一人の行動宣言（平成29年度）

全校対話集会での話し合いを踏まえて，一人一人がいじめの未然防止に向けて行動宣言を作成し，掲示した。

4 これまでの成果と考えられること

- ・いじめが発生すると生徒同士だけでなく，それらを取り巻く全ての人間関係を巻き込んで不幸な状況に陥っていくということにも考えが及ぶようになり，特に3年生では，学級内で深い意見交換ができた。また，生徒自身が普段の行動や他人に対する言葉遣い等を省みることができた。
- ・全校対話集会では，集団としての目標や今後の向かうべき理想の姿について全校の場で確認することができ，大変効果的であった。保護者が集会の様子を参観できたことも，学校の取組や生徒の実態等を家庭に伝える意味で意義深かった。この活動後，生徒間の人間関係で心配な様子がある場合，すぐに教員に伝えようとする意識が高まった。

5 今後の課題

- ・ルールを決めて終わりということにならないように，折に触れて「3つの約束」を基に自分や集団の様子を振り返る場面を設定し，いじめの未然防止に努めていきたい。
- ・学区の小学校児童会と連携し，小中が一本の線につながる取組にしていきたい。

学 校 名	男鹿市立潟西中学校	生徒数	72人	学級数	3
-------	-----------	-----	-----	-----	---

1 活動名 いじめ・不登校ゼロを目指した「絆づくり」

## 2 活動の趣旨

本校では、いじめ・不登校の未然防止を目指し、仲間との関わり合いを深め、望ましい人間関係を構築する「絆づくり」に取り組んでいる。特に、目標に向かって努力する経験を多く重ねることや、学校行事や委員会集会、清掃等の縦割り班活動など生徒が主体的に活動する異年齢交流を継続することで、自尊感情の醸成を目指している。

## 3 活動の概要

### (1) いじめゼロのための取組

#### ① いじめ撲滅集会

全校からいじめをなくす目的で、6月上旬に生活安全委員会が主催して、いじめ撲滅集会を行った。全校を12班に分けた縦割り班ごとに3年生が司会や記録などの役割を務め、活動全体をリードしていた。活動の最初にどのようなことがいじめに当たるのか班ごとに挙げてイメージを共有し、そのような行為がなくなることを願って「いじめゼロ宣言」を班ごとに策定した。



【いじめ撲滅集会の様子】

#### ② 「いじめゼロ宣言」の掲示

前述のいじめ撲滅集会で策定された「いじめゼロ宣言」は、集会で縦割り班ごとに発表して学校全体で共有した後、生活安全委員会が生徒玄関に掲示し、生徒が常に「いじめゼロ宣言」を見て意識できるようにした。

### (2) 小学校と連携した異年齢交流の取組

#### ① 小・中合同挨拶運動

昨年度から5月と10月に生徒会執行部と生活安全委員会が小学校を訪問して、小学校の企画委員と一緒に挨拶運動を行っている。小学生が中学校を訪問して挨拶運動することも現在検討中である。

#### ② 激励会への小学生の招待

7月に行われた市郡総体の激励会に小学5年生を招待して、激励に加わってもらった。選手として激励される側が多い状態だったため、小学生の参加は、激励会を盛り上げた。

### (3) 縦割り班活動の促進のための取組

#### ① 縦割り班での清掃

今年度から縦割り班で清掃を行っている。本校は一昨年度から無言清掃を実施しているが、多く言葉を交わさなくても、3年生の班長の指示で清掃がスムーズに進んでいる。

#### ② 行事の振り返りの共有

体育祭をはじめ、学校行事の全てが縦割りで行われているが、その振り返りを行事のワークシートで全校統一した形式に記入させ、道徳担当がまとめて掲示している。学年を越えて感謝の気持ちを綴っている生徒の他、上級生へのあこがれの気持ちを綴っている生徒も多い。

## 4 これまでの成果と考えられること

学校生活アンケートによれば、「学校生活が楽しい」という設問に肯定的に答えている生徒の割合が極めて大きい。また、学年を越えて人間関係のトラブルがなく、いじめの訴えや不登校傾向にある生徒数も昨年度から減少傾向にある。生徒個々が学校生活全体において所属感を感じていること、つまり、学校全体としての絆づくりが進んでいると推察できる。

昨年度までは、無言清掃の取組も生徒の抵抗感が拭えなく、徹底されている状態ではなかったが、今年度は、縦割り班の3年生の班長のリーダーシップにより、清掃に集中している状態が年度当初から継続されている。

## 5 今後の課題

いずれの活動も教師の側からの提案や企画を生徒が運営するような形である。できることなら、企画の段階から生徒の手で進められるようになってほしい。そのためにも生徒自身が学校生活の様々なことについて問題意識をもって見ていくような目を養わなければならないと考える。特に生徒会執行部の生徒たちには常に問題提起できるような意識を育てたい。



学 校 名	井川町立井川中学校	生徒数	118人	学級数	4
-------	-----------	-----	------	-----	---

1 活動名 「いじめ撲滅宣言を制定し、いじめのない学校づくりを目指そう」

2 活動の趣旨

冷やかしやからかいがいじめにつながるという認識をもち、お互いのよさを認め合い、共に高め合うことのできる集団づくり・学校づくりを目指す。

3 活動の概要

(1) いじめ撲滅運動推進の提案（5月）

- ・生徒総会で、活動の目的を生徒会執行部が説明し、全校生徒の同意を得た。

(2) 各学級による「いじめ撲滅宣言」制定（7月）

- ・いじめをテーマとした共通の題材を扱った全校道徳を行い、いじめについて深く考えた。
- ・学級で話し合い活動を行い、各学級の「いじめ撲滅宣言」を制定した。

(3) 生徒会執行部主催の「おもいやり集会」の実施（7月）

- ・各学級の「いじめ撲滅宣言」を全校生徒に発信した。
- ・生徒会執行部が考えた「井川中学校おもいやり宣言」を全校生徒に発信し、「おもいやりの木」の活動を提案した。
- ・生活委員会が「いじめ撲滅標語」を全校生徒から募集した。

(4) 「おもいやりの木」の掲示（7月以降）

- ・帰りの会に、その日に思いやりのある行動をした生徒を日直が桜の付箋に記入し、毎週金曜日に生徒会執行部が回収して掲示した。



【おもいやりの木】

(5) 各種宣言等の掲示（8月以降）

- ・各学級、生徒会執行部が制定した宣言と、生活委員が選定した「いじめ撲滅標語」を廊下に掲示し、啓発活動を行った。

4 これまでの成果と考えられること

学校生活アンケートの「どんな理由があってもいじめは絶対いけないと思う」という項目について、生徒全員が「そう思う」「だいたいそう思う」と回答しており、いじめはよくないことだと認識できている。また、「言葉や行動が相手を傷つけていないか気を付けている」と答えた生徒が95.7%と、本活動の成果が生活に結びついていることが分かる。また、本校特別活動部で意識して行ってきた、各行事や委員会集会等での活躍の場の設定とも関連した質問項目「自分にはよいところがあると思う」、「自分は、まわりの人の役に立っていると思う」では、「そう思う」「だいたいそう思う」と答えた生徒がそれぞれ90.7%、90.5%と、自己有用感が高まっていることがうかがえる。

5 今後の課題

上と同じアンケートで「いじめられる人も悪いところがあるのだから、仕方がない」「いじめられたら、仕返しをすればいい」と回答している生徒も複数おり、いじめがよくないことだ分かっているにもかかわらず、どのように対応すればよいのか理解できていない生徒もいることが分かった。今後も構成的グループエンカウンターやソーシャルスキルトレーニングの活動等を通し、社会性を身に付ける中でいじめに対する考え方を見つめ直す機会を設けていきたい。

また、本活動は3年目を迎えたが、これまでは宣言や標語策定のみがゴールになりがちであったため、機会あるごとに宣言や標語を振り返る場面を設け、日々意識して行動できるようにしていくことが必要である。

新年度からは井川小学校と一緒に義務教育学校がスタートすることを踏まえ、小学生とともにどのようにして「いじめ撲滅運動」を推進していくかを考えていく必要がある。



学 校 名	大仙市立中仙中学校	生徒数	169人	学級数	8
-------	-----------	-----	------	-----	---

1 活動名 秋桜プロジェクト ～地域に「笑顔」と「秋桜」の花を！～

2 活動の趣旨

これまで中仙中生徒会では、I（いつでも）D（どこでも）D（だれにでも）あいさつをし、思いやりの心をもって接する「IDD運動」を通して、地域を明るくする活動に取り組んできた。この活動に取り組むことで、生徒一人一人が望ましい人間関係を構築できるようになり、いじめの未然防止にもつながっている。

今年度はさらに「秋桜の里づくり」という活動を加えた「秋桜プロジェクト」を立ち上げた。生徒のアイデアを生かしたこのプロジェクトの実践により、全校生徒の一体感を醸成し、自己有用感の向上につなげることをねらっている。



3 活動の概要

【IDD運動】

これまで取り組んできた出身小学校や地域でのあいさつ運動、【秋桜プロジェクトのポスター】アルミ缶回収、クリーンアップに加え、夏休みに行われる地元のお祭りである「ドンパン祭り」の準備にボランティアとして参加するように生徒会から呼びかけた。これまでは参加して楽しむだけだったドンパン祭りに、自分たちが少しでも協力し、支援したいという気運が高まり、3年生を中心にたくさんの希望者が集まった。当日は、テント張りやのぼりの準備、ゴミ箱の設置、備品の仕分けなどに分かれて作業を行った。

【秋桜の里づくり】

地域の建設会社の協力を仰ぎ、学校の周りの秋桜を植える花壇等の面積を大幅に拡大し、6月に全校生徒で秋桜の種をまき、育てた。中仙中だけでなく、中仙地域を秋桜でいっぱいになりたいとの思いから、ドンパン祭りの来場者や中仙中生徒の家庭、学区内の小学校、施設などに秋桜の種をプレゼントし、植えてくださるようお願いした。さらに、秋桜の花が咲き誇る10月初旬に開催された学校祭の来場者にも秋桜の種をプレゼントし、来夏に植えてくださるようお願いした。



【ドンパン祭りでの秋桜の種を配る生徒】

4 これまでの成果と考えられること

ドンパン祭りボランティアに参加した生徒からは、「地域に貢献する喜びを感じた」といった感想が、秋桜の種のプレゼントを行った生徒からは、「たくさんの方から『ありがとう』や『家でまいてみるね』などと言っただき、とてもうれしかった」といった感想が多く聞かれた。

活動に取り組む中で、地域の方のたくさんの笑顔にふれるとともに、仲間と共に地域を支えているという実感を得ていることが、自己有用感や健全な仲間意識の向上、いじめの未然防止につながっていると考えられる。

5 今後の課題

プロジェクトに取り組む中で、本校生徒会で受け継がれてきたIDD運動のあいさつ、思いやりの輪がこれまで以上に広がり、新たな取組である秋桜の里づくりによって、より多くの方との関わりが生まれた。地域に「笑顔」と「秋桜」の花を咲かせるためにも、この活動を柱に生徒一人一人に自信を付けさせながら、折に触れてコミュニケーションや人間関係づくりの在り方について見つめ直させ、みんなが笑顔で過ごせるような学校・地域文化の創造に尽力させたいと考える。

学 校 名	秋田県立横手清陵学院中学校	生徒数	170人	学級数	6
-------	---------------	-----	------	-----	---

1 活動名 清陵イノベーションプロジェクト及びHCK（ほめちやう活動）

2 活動の趣旨

・清陵革新（イノベーション）プロジェクト 【平成28年度より実施】

横手清陵学院中学校・高校生徒会による活動。このプロジェクトは、学校生活や人間関係づくり、SNSの使用などについて見直すことで、中高清陵生のよさや課題や、抱えている悩みに気付くとともに、そのことについて話し合うことで、学校生活を安全・安心に過ごそうとする雰囲気づくりを目指すものである。

初年度である平成28年度は「いじめ防止・絆づくり」、本年度は「マナーアップ」をテーマとして、生徒の自主的活動によって、生活向上を目指す活動をしてきた。

本年度の活動の目的は以下の通りである。

- (1) 中高生徒が連携してマナーアップを意識して行動し、学校生活を向上させようとする雰囲気を作る。
- (2) 様々な学校生活場面に関わるマナーの在り方について意識を高め、よりよい公共での生活を自ら築く自主的活動を促進する。
- (3) 生徒会執行委員や中央委員がプロジェクトの運営に携わることにより、リーダー性の育成を図る。

・HCK（ほめちやう活動）

生徒会中央委員会による企画。生徒同士の認め合いにより自己有用感を高め、よりよい学級づくり・学年づくり、学校づくりがなされることを目的とした活動である。

3 活動の概要

(1) 朝のあいさつ運動

生徒会役員及び有志によるあいさつ運動。本校は通学範囲が広く、通学手段も多様なため、朝の一斉活動には制約がある。そのため、有志による参加の意欲を高める工夫をしながら、運動の浸透を図っている。

(2) クラス対抗授業号令コンテスト

授業開始・終了の際のあいさつを採点し、授業の規律や取組の意欲の向上を図った。

(3) マナーに関する集会

各専門委員会ごとの視点から、マナーに関した項目を挙げてアンケートを作成し、中高全校生徒を対象にアンケートを実施した。その分析結果から見えてきた課題やその解決策について全校集会で提案し、全生徒で共通理解を図った。

(4) 「マイマナーアップ宣言」

上記(3)の集会を受けて、生徒一人一人が個人で「マイマナーアップ宣言」を三つずつ考えた。それを付箋に記入したものを集めて、生徒会及び中央委員が『付箋アート』を作成し、学校祭で展示後、生徒玄関に掲示している。



【「マイマナーアップ宣言」を集めて作った付箋アート】

(5) HCK（ほめちやう活動）

帰りの会の際に、その日の日直の仕事ぶりやがんばりについて、他の生徒がコメントする活動。「ほめる」という肯定的なとらえに限定することで、個人の意欲の向上や集団としての認め合いを実践する場として継続している。

4 これまでの成果と考えられること

以前に比べて、マナーをよくするためには他者の見方を意識することや、状況に合わせて行動することが欠かせないことに活動を通して気づき、自分のマナーについて顧みることができている様子が見られるようになった。

HCKでは、その人について気付いていなかったよさをみんなで確認することができている。生徒同士が認め合う活動を継続していることにより、互いを肯定的に捉える意識の定着や温かい集団づくりの場として機能している。

5 今後の課題

活動への参加意識が低い生徒を個別に指導していく必要がある。また、マナーアップ宣言と自分の実際の行動とのずれなどについて、生徒自身が自己の取組を評価する機会を設けるなどして、活動をより良いものにしていきたい。そして、いじめが起きにくい学校風土を培っていきたい。

# 【高等学校】

(中・高校生用)

## 秋田わか杉っ子 いじめゼロに向けた五か条

- 一 私たちは、いじめが人権を侵害する許されない行為であることを理解し、絶対に行いません。
- 二 私たちは、いじめを見過ごさず、友人や信頼できる人と力を合わせて、いじめの根絶に向けて行動します。
- 三 私たちは、思いやりの心を大切にし、他人の喜びや心の痛みをその人の身になって感じたり考えたりします。
- 四 私たちは、一人一人の違いを認め、自分も相手もかけがえない存在として尊重します。
- 五 私たちは、生活習慣や文化、価値観の異なる人々とも積極的に交流し、社会を支える一人になります。





学 校 名	秋田県立矢島高等学校	生徒数	147人	学級数	6
-------	------------	-----	------	-----	---

1 活動名 矢島高校生徒会 いじめ撲滅キャンペーン

2 活動の趣旨

全生徒が作成した「いじめ撲滅宣言」から抜き出したアイデアを元に、矢島高校生としていじめ撲滅に向けてしっかりと取り組むための意気込みを込めたスローガンを作成することで、いじめを未然に防ぐ生徒同士の意識を高め合うことを目的とする。

3 活動の概要

①「いじめ撲滅標語」を全校生徒が作成し、よい作品を看板にして生徒玄関に掲示

看板の作成費用は矢島・島海地区生徒指導研究協議会が出資【平成27年度】

②「いじめ撲滅スローガン」を全校生徒から募集

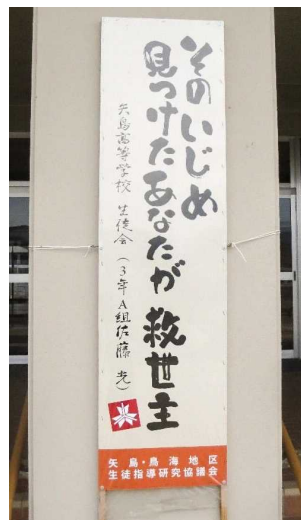
スローガンは「君は知らない、心の痛みを。知ろう、誰かが傷つく今を。」に決定し、教室棟の全校生徒が見える場所（梁）に掲示【平成28年度】

③生徒会と美術部が協力して「いじめ撲滅キャンペーンポスター」を作成

矢島高校と矢島中学校の生徒会新役員が決定後、相互に連携していじめ撲滅を推進【平成29年度】



【教室棟の梁に掲示された撲滅スローガン】



【生徒玄関前のいじめ撲滅標語看板】

4 これまでの成果と考えられること

全校を挙げて、いじめ防止に取り組むことができた。それまでは受け身・他人事だった生徒たちが、自分の事として主体的に「いじめ」を防ぐ企画・立案を行い、いじめを未然に防ぐ生徒同士の意識を高め合うことができた。

5 今後の課題

高校側で強力に推進してきた「いじめ撲滅」の生徒会による実践を、連携校である矢島中学校の生徒会とも連携して継続的な活動にしていきたい。

学 校 名	秋田県立横手城南高等学校	生徒数	497人	学級数	14
-------	--------------	-----	------	-----	----

1 活動名

銀杏憲章集会

2 活動の趣旨

全校生徒が一堂に会して生活上心がけるべきことを朗読することで、規範意識を涵養し、規律ある生活を送ることを目的としている。

3 活動の概要

①活動の時期・・・学期ごとに計年3回（4月，8月，1月）

②参加生徒・・・全校生徒

③活動の内容・・・生徒会長が全校生徒にどのような学校生活を送るべきかなど、その時期に合った内容で挨拶を行う。次に風紀委員がステージへ登壇し、生徒会長が銀杏憲章を読み上げ、それに続いて全校生徒が銀杏憲章を朗読する。



【銀杏憲章集会 生徒会長挨拶】



【銀杏憲章集会 生徒会長の読み上げ】

4 これまでの成果と考えられること

日頃、忘れがちな校訓を全校生徒が一堂に会して再認識することで、人を思いやる心、誠意を尽くして人や物事にあたるまごころ、力を合わせ、ともに頑張ろうとする心を再認識し、自分自身の生活の在り方を見直す契機としている。教師からの指導ではなく、生徒自身が主体的に取り組む集会がいじめ防止の一助としての役割を担っている。また、生徒主体であること、全員が一堂に会しての集会は、心の結束と安心感を与えている。

5 今後の課題

この集会が、単なる形式的な集会・朗読で終わることのないよう、生徒の主体的な活動を中心とした更なる取組の工夫を図っていきたい。

# 【特別支援学校】





学 校 名	秋田県立支援学校天王みどり学園	児童生徒数	120人	学級数	20
-------	-----------------	-------	------	-----	----

1 活動名 いじめを防止するために ～小・中・高を結ぶ活動～

2 活動の趣旨

生徒会では、毎年「いじめ防止」についての話し合いを実施している。今年度は、いじめを防止するために、「全校の友だちの名前を知ること」と「活動を通して仲良くなること」を目指すことになった。この二つを達成するために、毎日実施している「朝のあいさつ運動」と毎月実施している「全校集会」、季節の「行事等」を活動の柱とする。これらの活動により、小・中・高を結び、学部の枠を超えたコミュニケーションや思いやりの気持ちを育み、協力することの大切さを伝える。

3 活動の概要

○【朝のあいさつ運動】～毎日実施 <中学部・高等部生徒会>

生徒会が主体となり、毎朝玄関前で行っている活動である。全校の友だちの名前を覚えていたいという生徒会役員の思いから、名前を呼んであいさつをしている。名前を呼ぶことで、より意識的にあいさつができ、相手もうれしい気持ちで受け止めている。



○【全校集会】～毎月実施 <全校児童生徒>

【〇〇くんおはようございます】

各種委員会からの連絡の際、ゲーム形式で行ったり、運動会の色別グループを基に活動したりしている。中学部・高等部の生徒は、小学部の児童にぶつからないように配慮しながら移動したり、一緒に活動したりしている。

○【運動会】【学園祭】～季節行事等 <全校児童生徒>

運動会の色別グループで一緒に応援合戦練習や準備物の作成を行ったり、生徒の実行委員を募ったりするなど、多くの児童生徒がいろいろな人と関わりをもちながら参加できるように取り組んでいる。また、グループのリーダーを置くことで、グループ内の結束力も高まってきている。

4 これまでの成果と考えられること

- ・「いじめ防止」の話し合い活動を行った際、生徒会役員から、「みんなが仲良くなるために全校レクリエーションをやりたい」、「みんなで手をつないでいるようなポスターを作成したらよいのではないか」等の意見が出された。全校の児童生徒のことを考え、積極的な意見が交わされたことは、「いじめ防止」の一步になったと考える。
- ・朝のあいさつ運動によって、あいさつを交わす習慣が少しずつ定着してきている。今年度は、友だちの名前を呼んでからあいさつをすることで、学部を越えて名前を覚えたり、知ったりすることができるようになってきている。また、全校集会や行事等では、グループ内で協力すること、助け合ったりすることなど、自然な関わりが見られるようになった。
- ・生徒会の縦の繋がりが深まり、全校の児童生徒の繋がりに波及してきている。

5 今後の課題

- ・様々な活動を通して、一人一人が相手のことを知ったり、学部を越えて仲良くなったりするために、先輩、後輩の繋がりを大事にできるような活動内容を検討していきたい。また、部活動や各クラスの学級委員と生徒会が連携しながら、多くの児童生徒が自分たちの活動に主体的に参加できるように意識的に取り組んでいきたい。

学 校 名	秋田県立稲川支援学校	児童生徒数	74人	学級数	15
-------	------------	-------	-----	-----	----

1 活動名 あかるく 元気に がんばる学校 いーな宣言

2 活動の趣旨

SNSによるトラブルなど、児童生徒を取り巻く環境が変化する状況において、児童生徒自身が様々な事態に対応する力を身に付けるためにも、生徒主導の「学校づくり」を目指し、本校の目指す児童生徒像も踏まえた「あかるく 元気に がんばる学校 いーな宣言」を作成して全校に呼びかけることにした。



3 活動の概要

○活動の時期：1学期～2学期

○参加生徒：高等部生徒会役員及びクラス代表の代表委員

○活動の内容等

・話し合い活動の実施

1学期に代表委員の生徒から、学校をもっと過ごしやすくするために自分たちにできることはないか考えたい、という投げかけがあった。その後数回に渡り、「自分たちが学校のみみんなのためにできること」、「いじめや困りごとのない学校にするためにできること」について話し合う機会を設けた。

・五つの約束「いーな宣言」の作成

代表委員の意見を基に、「あかるく げんきに がんばる学校 いーな宣言」として、全校で守りたい五つの約束を決めた。タイトルは、本校の目指す児童生徒像が「あかるく 元気な がんばる子」であることと、地域名を生かした「いーな〇〇」という取組が学校の内外で定着していることに由来している。

・「いーな宣言」の説明と呼びかけ

高等部1年生の学年集会の際に、代表委員から「いーな宣言」の説明や呼びかけを行い、その後、高等部校舎にポスターを掲示した。今後は11月末の全校集会とその後の学部集会で全校への呼びかけを予定している。



【代表委員による「いーな宣言」の説明】

4 これまでの成果と考えられること

「自分たちが学校のためにできることはないか」という視点と、それを形にしていこうという思いをもつことによって、月に一度行っている全校集会や学校行事への取り組み方（企画、運営等）がより主体的になり、全校縦割りグループの活動での後輩や友達との関わり方も積極的になった。

5 今後の課題

- ・全校児童生徒がこの宣言の内容を理解し、自分で取り組んでいくために、小学部・中学部の児童生徒でも日常生活の中に組み込みやすい内容にアレンジするなどの方法を検討する。
- ・一度の呼びかけで終わらずに継続して取り組む方法、また、継続して取り組む姿をどう評価していくか、継続したことでのどのように児童生徒や学校が変容したかという検証方法について検討が必要である。





北秋田市立合川中学校



秋田市立築山小学校



能代市立向能代小学校



男鹿市立潟西中学校



県立横手清陵学院中学校



由利本荘市立岩城小学校



羽後町立三輪小学校



大仙市立中仙中学校



県立稲川支援学校



県立横手城南高等学校